

社会の最前線で活躍する 起業家から学ぶ 真のベンチャーマインド

楽天、ライブドア、ソフトバンク……。いま、日本で元気な企業といえば「ベンチャー企業」が思い浮かぶ。サラリーマンもいいけれど、思い切って起業するのもひとつのキャリア選択だ。成功した起業家は何を思い、どう行動したのか。彼らから学べることは、きっと数多くあるはずだ。

キャリアの 選択肢としての「起業」

アメリカに比べ、日本の起業家教育はまだ遅れている。早稲田では、学生ベンチャーを促すコンテストや講座を数多く開き、優秀なアイデアを出した学生にはオフィス代わりの場所を提供したり、ベンチャーキャピタルから出資を得る機会を提供したりと、「早稲田の社から起業家を」を合言葉

にさまざまな取り組みを行っている。ここで紹介するシルマン・ハイ

この日の講師は、経済産業省貿易経済協力局 通商金融・経済協力課長（早稲田大学客員教授）、杉田定大氏。講演の内容は「日本のとるべき通一東アジアのFTA戦略」。

テクベンチャー講座も、こうした取り組みのひとつだ。

「私のねらいは起業家を輩出すること。大学を卒業し、サラリーマンになることだけが人生ではありません。この授業の目的は、『起業』をキャリアのひとつの選択肢として提示すること、学生に起業家マインドを植えつけることなのです」。

力強く語るのは、講座を担当する大江山先生。この講座は、コグネックス社の創業者であるロバート・J・シルマン博士の寄付によって、早稲田にシルマンホールが開設されたことを記念して始まったものだ。シルマン博士自



杉田先生の講義を聞き、熱心にノートをとる学生たち。この後、アジア市場の将来性、日本の貿易政策の今後について、活発な質疑応答が交わされた。



身、MIT（マサチューセッツ工科大学）でPh.D.を取得し、大学での研究成果をもとに起業した有能なビジネスマンである。大江先生も、ビジネス・コンサルタントとして実社会で長く活躍した経験をお持ちだ。

「楽天、ライブドア、ソフトバンク……。いま、日本で元気のある企業、注目されている企業の多くがベンチャー企業です。これからの日本経済を支える活力を生み出すために、起業家をどんどん輩出したい。そのために、学生に『起業は難しい』『いつでも、誰にでもできる』が『成功するにはたゆまない努力が必要である』というこ

とを知ってもらいたい。そして、できれば学生時代から、将来の起業に向けて準備を始めてもらいたいです」

起業家に聞くビジネスの 戦略とプロセス

本講座では、シルマン博士をはじめ、国内外で成功を収めた起業家を大学に招き、彼らの起業から現在に至るまでのビジネスプロセスを聞いていく。

「成功する企業は、技術や環境の変化に迅速に対応しながら進化していくものです。この科目では、ベンチャーの牽引者である社長を招き、起業と変革のプロセスにおける楽しさと苦勞





大江建先生

アジア太平洋研究科教授。起業家教育論、不確実性下の新規事業、「仮説のマネジメント」の体系化

が研究テーマ。「なぜ新規事業は成功しないのか」(日本経済新聞社出版局)、「中小企業の新規事業」(すばる舎)など著書多数。

や、ぎりぎりまで計算したリスクに挑戦しながら危険を回避する術について、話っていただきます」。

学生時代から起業した人、仕事上で感じたニーズを自ら事業化した人、サ

ラリーマンとしての長いキャリアを経たから起業した人など、講師として呼ばれる人材は多彩だ。

「起業といっても、いろいろなきっかけがあり、時期があることを知ってもらいたいからです」。

授業は実践的なケーススタディやディスカッションを取り入れ、あくまでも実社会との結びつきを重視。大学時代から将来の起業に向けた準備を始めようために、講師と学生との交流パーティも数回にわたって開催している。「交流パーティはネットワーク作りの場として設定しています。講師と名刺交換するなど、学生には積極的に活用してほしいですね」

授業は毎週、講師を務める起業家の紹介から始まり、起業家による講義、質疑応答と進んでいく。学生は、実際の苦労話や楽しい話を通して、その裏にある、企業戦略とその変遷、成長プロセスを理解する。また、今後のビジネス戦略についても考察する。質疑応答ではなかなかいい質問が出ると、講師からの評判も上々だ。学生は毎回、企業戦略のこれまでの変遷と将来とるべき戦略をまとめて、A4一枚のレポートとして提出するほか、学期末には学部混成のチームを作り、チームごとに新規事業またはビジネスモデル戦略を提案する。その中で特に優秀な提案

Section 2 ビジネスの新機軸を拓く シルマン・ハイテクベンチャー講座



最終講義で配付された資料。講義後はレポートの提出が毎回要求される。日本・フィリピン経済連携協定についての資料その他は杉田先生のもの。

があれば、社長もしくは企業に実際にプレゼンテーションするという。こうしたトレーニングを経て、学生たちの中にしっかりとした起業家マインドが根づいていく。

起業するうえで、ビジネスを取り巻く経済環境を理解しておくことも重要なポイントだ。取材させていただいた最終講義では、早稲田大学客員教授であり、経済産業省貿易経済協力局で日本の貿易政策の最前線に携わる杉田大先生を招き、「アジアの中の日本」

というテーマで講義がおこなわれていた。世界市場における中国をはじめアジア諸国の台頭、貿易相手国としてのアジア市場の拡大、日本の貿易自由化と関税政策……。日本を取り巻くアジア、そして世界の大きな動きについて、ときには小泉首相から実際に受けた指示などを交えて語る杉田先生の話を、どの学生も真剣な表情で聞き入っていた。

早稲田の杜から起業家が生まれる日は、そう遠くない。

Syllabus

【講義の概要】

シルマン・ハイテクベンチャー講座

日本を取り巻く経済環境への理解を進めると同時に、将来のキャリアの一選択肢として「起業」を捉える。ベンチャー企業の社長を招き、その起業プロセスと変遷を実際に聞くことで、起業への興味を醸成し、起業プロセスと成長プロセスへの理解を深める。大学時代から起業準備を進めようために、講師との交流パーティを実施してネットワーク形成の場を提供している。学生は期末に事業計画、ビジネスモデル戦略を提出する。